

「流域計画・流域管理課題分野」(平成26年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
高度数値解析による河川氾濫詳細被害情報を活用した災害時のコミュニティバス活用方策の研究開発（研究期間：H26年～H28年）	埼玉大学 小嶋 文	B
<研究概要> <p>本研究では、高度な河川氾濫被害想定結果を基に、従前は防災・減災の観点では用いられていない、公共交通機関であるコミュニティバスを、避難者増大のためのツールとして活用し、「高度水害リスク情報を踏まえた公共交通機関の避難支援活用方策と避難効率の向上」方策の開発を図る。避難者の増大には、バス輸送による直接効果、及びバスが緊急時にも役割を持つことの広報による、避難意識の向上に影響を及ぼす間接効果を想定し検討している。</p>		
<事後評価コメント> <p>災害時のコミュニティバスの活用というチャレンジングな課題に取り組み、運行計画の立案、社会実験を実施し、その効果を示していることから、研究目的は概ね達成され、研究成果があった。しかしながら、コミュニティバス利用の直接効果の定量評価、内水氾濫解析の妥当性の検証が必要であったと考えられる。 今後は、コミュニティバス以外の手段との比較、連携や情報伝達方法など実際の避難行動を想定した研究を進展させることが期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い